

国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC） 第11回執行委員会及び運営グループ合同会合の結果概要について

令和2年11月13日
内閣府
原子力政策担当室

令和2年11月12日、国際原子力エネルギー協力フレームワーク（IFNEC）第11回執行委員会及び運営グループ合同会合がオンライン会合により開催され、日本から江崎内閣府大臣官房審議官が出席した、結果概要について以下のとおり報告する。

※IFNEC：International Framework for Nuclear Energy Cooperation

1. 開催日程・場所

- ・令和2年11月12日 21:00-21:35（日本時間）
- ・オンライン会合（ZOOM 利用）

2. 参加国・国際機関

（1）参加国（21カ国）

アルゼンチン、アルメニア、オーストリア、カナダ、中国、エジプト、フランス、ドイツ、ガーナ、イタリア、日本、ヨルダン、ケニア、韓国、ポーランド、ロシア

シンガポール、スロベニア、ウクライナ、イギリス、米国

※下線はオブザーバー国を示す。

（2）国際機関（4機関）

IAEA（国際原子力機関）GIF（第4世代原子力システムに関する国際フォーラム）

OECD/NEA（経済協力開発機構／原子力機関）、EC（欧州委員会）

（3）主要参加者（計 65 名）

- ・運営グループ議長：ダンカン DOE 次官補代理（米国）
ジャワロスキー 前運営グループ議長（米国）
- ・運営グループ副議長：江崎 内閣府大臣官房審議官（日本）
シー 国家能源局原子能司副司長（中国）
アルチシュク ロスアトム技術アカデミー副学長（ロシア）
ジュマ ケニア原子力発電委員会最高経営責任者（ケニア）
デルーチ 財務省原子力政策課長（アルゼンチン）

3. 会合結果

（1）開会挨拶：ダンカン 新運営グループ議長（DOE）

ジャワロスキー 前議長挨拶（IAEA）

（2）参加国等報告

①全般

- ・会合開催に対する謝意、前議長への謝意、新議長への祝意の後、各国等毎に原子力事情・活動状況について発表があった。

②各国報告（特記事項）

カナダ：2018年 SMR のロードマップを策定し、目下 SMR の審査や規制関係の簡素化等に注力している旨の発言。

- ・日本：江崎審議官より福島復興、原子炉の再稼働、原子力に関する最近の状況等について発表。
- ・ヨルダン：SMRの審査のグローバル・スタンダードに注力している。
- ・韓国：SMRの多目的利用（炭素化、熱利用等）に注目している。
- ・ケニア：IFNECではSMRについて多く学んだ。ケニアは資源が乏しく、政府も福島教訓に留意しつつ、クリーンエネルギーとしての原子力の開発を支援している。ファイナンスについては政府間融資ばかりでなく世銀の融資も期待している。
- ・ポーランド：エネルギー戦略の更新により長期ロードマップが示され、ゼロエミッションを目指して高温炉等の開発にも注力してゆく。
- ・ロシア：昨年12月小型モジュール炉（SMR）を使用した海上浮揚式原発（FNPP：アカデミック・ロモノソフ号）が送電を開始、本年10月北極で使用した砕氷船が完成（北極圏での資源等権益確保が目的と目される）、SMR（175MW）を2基搭載している。
- ・シンガポール：（オブザーバー国ではあるが）原子力を将来エネルギーのオプションとしたい。
- ・英国：先進炉、ヒンクリーポイントC、地層処分への取組等について、簡単なブリーフィングがあった。
- ・米国：原子力は重要なクリーンエネルギーと考えている。
米国は原子力分野におけるリーダーシップを回復すべく研究開発に注力しており、HALEU（低濃縮ウラン燃料）、Versatile Reactor（多目的研究炉）は重要な技術。

③国際機関

- ・NEA/OECD：事務局長マグウッド氏から、本年米国、フランス、ルーマニア、エジプトの理事と対話し成果を得ており、今後も引き続き注力する。
- ・GIF：GIFではSMRもGenerationIVの対象に含め、高温ガス炉などとともに、IAEAやNEAと協力して、持続可能な社会のために開発に努めている。
- ・IAEA：本年は実会合が開催できなかったが、オンラインによるトレーニングやウェビナーなどを開催した。SMRについては現在70種もの設計が進行、予定されており、エネルギー遷移の中で注目されている。
来年10月ワシントンで原子力関係の閣僚会議を計画しており、目下準備中である。

④特記事項

- ・IFNECの注力するSMR、ファイナンス等に重点をおいた話題が散見された。
- ・独伊など脱原発国も廃炉・廃棄物処分に関するIFNECの活動への関心を示した。
- ・IFNECが取り組んでいる世銀へのアプローチについて、ヨルダン、ケニアが小規模国として期待を示す。
- ・英国、シンガポールが近時積極的に参加している。英国は本年から拠出金を開始、シンガポールはオブザーバー国ながら原子力に関心を示している。
- ・本年中止された主要な会合の開催地国から当会合を来年に延期して開催する旨の発表があった（IFNECカンファランス：ケニア、SMRワークショップ：ヨルダン、ファイナンス関連会合：ポーランド）。

（3）議長報告

原子力が直面する6つの課題に対する取り組みとして「Vision and Strategy」（案）が示され、IFNECの今後の活動の方向性について説明があった。

当案は、2019年米国開催の執行委員会において、原子力が直面する6つの課題が提示され、その具体的取り組みとして「Vision and Strategy」の作成が勧告されたもの。

今後の予定：12月1日原案を完成、12月15日SGで承認
毎年実行状況の評価、2023年のEGで見直し

※米国会合で示された6つの課題(Challenges)

①ファイナンス

Financing new nuclear projects, improving cost efficiency, and attracting investment in an increasingly competitive global market

②安全文化

Maintaining a strong safety culture

③原子力関連規則

Maintaining strong, independent nuclear regulation

④公衆理解

Developing enhanced tools and techniques to assist with gaining public awareness and maintaining consistent stakeholder engagement

⑤法制・規制関係

Reducing legal, regulatory, and geopolitical barriers to regional and international collaboration

⑥バックエンド問題

Developing and implementing cost-effective solutions for managing the back-end of the nuclear fuel cycle.

(4) 作業部会報告

各作業部会より過去の活動報告及び今後の活動計画について報告がなされた。

①IDWG：クバキ共同議長

- ・2020 活動：IAEA と連携してファイナンス関連のウェビナー開催
- ・2021 計画：1月14-15日、NEA・IFNEC 共催のウェビナー（4セッション）
5月にSMRのウェビナーを予定（延期の場合2021年後半）
10月に同ハイレベルの会合をワルシャワで開催

②RNFSWG：タイソン共同議長

- ・2020 活動：各種会同等参加（3月廃棄物管理国際シンポジウム
7月多国間処理 ウェビナー、9月英国原子力産業協会会議
11月深地層処分ウェビナー
- ・2021 計画：多国間処理、デュアルトラックアプローチの活動継続
※共同議長の在任が2人とも4年を越えたので後任候補の呼びかけを行った。

③NSCCEG：デルーチ共同議長

- ・2020 活動：6月ウェビナーのホスト（日中）、FNCAでのプロモ（日本）
ラテンアメリカ会合（NICEとの共催）
- ・2021 計画：アルゼンチン案（企業参加のラウンドテーブル会合）
日本案（大型プロジェクト関連ファイナンスのワークショップ）
中国案（SMR・ファイナンスの国際協力）

(5) 事務局からの報告

①ウェビナー結果

②広報関係

Newsletters, social media, video & podcasts

③出版関係

- 2018年「規制当局の課題」に関するWSの成果（IDWG）
- 2018年「エネルギー遷移における原子力の役割」に関するConferenceの成果
（2021予定）
- 2019年「非電力利用」に関するWS（IDWG）の成果

2019年「SMRと先進炉」に関する Conference の成果（2021年予定）

④予算（2020年拠出金）

（6）2021会合について：ジュマ副議長（ケニア）

本年中止となったが、来年に延期して開催すべく準備中。

4. 全般所感

SMRに関しては米国、カナダ等で盛んに取り組んでおり、ヨルダンやケニア等の小規模経済国で需要が期待されている。ファイナンスに関しても同様に原子力に関心のあるヨルダンやケニアは世銀の融資に期待する発言があった。

IFNECは、脱原発国である独伊も廃炉や廃棄物処理の分野に注目して参加しており、また米欧のライバルと目される中露も参加して比較的自由に発言しており、世界の原子力事情を知る上で、弾力的で幅広いプラットフォームを形成している。

5. 添付資料

（1）添付1：2020IFNEC執行委員会アジェンダ

（2）添付2：第11回執行委員会共同声明（英文）